

令和 3（2021）年度ヒラメ瀬戸内海系群の 管理基準値等に関する提案

国立研究開発法人水産研究・教育機構並びに共同実施機関は、令和 3（2021）年度ヒラメ瀬戸内海系群の管理基準値等に関する研究機関会議において、令和 4 年度以降の資源評価に必要な科学的パラメータについて議論し、以下の点を提案する。

適用する管理規則

「令和 3（2021）年度漁獲管理規則および ABC 算定のための基本指針（FRA-SA2021-ABCWG02-01）」で示された 1 系資源の管理規則を適用する。

管理基準値

- ・ 目標管理基準値は、SBmsy で 2,427 トン。
- ・ 限界管理基準値は、SB0.6msy で 857 トン。
- ・ 禁漁水準は、SB0.1msy で 121 トン
- ・ なお、最近年（2020 年）の本系群の親魚量は 2,190 トンである。

調整係数 β

- ・ 人工種苗由来の加入が現状と同水準で今後 10 年間継続すると仮定した場合、 β が 1.0 以下の漁獲管理規則を用いれば 10 年後の目標管理基準値を 50%以上の確率で上回ると推定された。
- ・ 親魚量が限界管理基準値を下回るリスクは低いが、本資源は資源評価対象期間が短く再生産関係等に不確実性が懸念されるため、 β は標準値である 0.8 以下にすることが望ましい。

その他

- ・ 本系群の再生産関係としては、自己相関を考慮したホッケー・スティック型関係式を適用した。パラメータ推定には最小二乗法を用いた。
- ・ 再生産関係のパラメータ推定に使用したデータは、令和 3（2021）年度の本系群の資源評価でコホート解析により推定された 1994～2019 年の加入量および親魚量である。
- ・ 目標管理基準値案での親魚量（SBmsy）で期待される漁獲量（MSY）は 806 トン。
- ・ 資源量推定が行われている期間は再生産関係が明瞭ではなく加入量の予測には不確実性が高いこと、直近年の資源量推定値にも不確実性が高いことから、過度な漁獲とならないよう注意が必要である。
- ・ 種苗放流の体制が今後大きく変化することがあれば、管理方策についても再検討が必要となる。
- ・ 本提案は調整係数 β を 1 から 0 の間で 0.1 刻みに検討した将来予測結果に基づく。